

HopStepJump

7

授業づくり③・④

—授業の導入・展開・まとめについて—

<https://toyono-jinjikyoo.com/>

コラボ研

テーマ「子どもの力を引き出す授業づくり～」

第6・7回の初任者研修は、大阪教育大学附属池田小学校・中学校を会場に、初任者と10年経験者がともに学び合う合同研修、“コラボ研”を行いました。「子どもの力を引き出す授業づくり」をテーマに、午前は教科・グループごとに初任者全員が模擬授業を行い、10年経験者が進行役を担って研究協議をしました。午後からは、大阪教育大学附属池田小・中学校の先生の模擬授業を、児童・生徒役として受けたり、中学校においては教材を持ち寄る等、実践交流や意見交換をしたりしました。忙しい毎日の中で指導案の作成を含め、準備は大変だったと思いますが、授業づくりについて視野が広がり、今後につながるたくさんの気づきと深い学びを得る研修となったのではないのでしょうか。

【中学校班】～振り返りシートより～

同じ教科の先生に授業を見てもらう機会が今までなかったので、今回、専門的な視点でアドバイス等をいただき、今後の授業改善に生かしていけると思いました。また、今まで疑問に感じていた評価の付け方等、10年目の先生方に聞くことができよかったです。

実際に模擬授業をやって、たくさんの先生方にアドバイスをもらう中で、自分にはなかった視点を学ぶことができました。また、他の初任者の先生方の授業を見る中で、学べるが多かったです。今後の実践の中で生かしていきたいです。

同じ悩みを持った先生方と交流ができて勉強になりました。授業の進め方や発問の仕方など、細かなところまで学ぶことができ、今後の授業の参考になりました。教材研究では生徒にどのような力をつけさせたいかということに常に意識して取り組んで行きたいと思いました。

子どもにつけさせたい力は何なのか、そのための手立てを考え、本時の目標を考えることが授業づくりにおいて最も大切なことだと思いました。そして、改めて発問の難しさを感じました。どのように問いかけたら生徒は考えることができ、そのためにどんな資料があれば考えが広がっていくのかを日々の授業を通して振り返ることで、考え続けなければならないと思いました。

一緒に受講した初任の先生方の授業スタイルやICT機器の活用などについて学ぶことができ勉強になりました。自分の模擬授業でも発問の扱い方やねらいや意図についても、もっと指導案を練り直す点があつてとても勉強になりました。また、学び合いの授業に関しても、同じ教科でも先生ごとに重点を置いている箇所が違って、とても有意義な時間でした。

指導案の書き方はもちろんですが、単元ごとに何を教えたいかという骨格を明確にすることが大切だと思いました。めあての設定の方法や、グループワークの方法など参考になる点が多かったです。自分は単元が変わった時にそんなにはっきりとした設計図のようなものを組み立てたことがなかったので、この研修を通して少しずつ取り組んでみようと思いました。

10年経験者は、初任者にとってより充実した内容の研修となるよう、事前に教科やグループごとに分かれ、準備され当日を迎えられました。「今回の研修を通して、たくさんの方々とながれたことが楽しかったし、とても学びになりました。」と振り返りシートに記入されている方もいらっしゃいました。コラボ研を通して、同期の方とのつながりはもちろんですが、10年経験者の先生と出会うことで、これから先の自分の姿について考えている人もいらっしゃいました。10年後どのような先生、先輩になりたいかを考えると、今をどう過ごすか見えてきますね。

【小学校班】

◀午前：模擬授業を終えた初任者の振り返りシートより▶

グループは、全部で20グループ。できる限り同じ学年を担当する初任者と10年目経験者、最大8名で構成され、グループごとに初任者全員が算数の模擬授業を行いました。

自分なりに指導案を考え、授業をしてみました。今まで気がつくことができなかったところや、新しい視点で授業を考えることができ、とても学ぶことが多かったです。たくさんのアドバイスをいただくことができ、授業をする前は「緊張するなあ…」と気が落ちましたが、終わってみると、「やってよかったな」と思いました。また、他の先生方の授業に参加しながら「自分ならこうするかな?」「もう少しこうした方が…」と考えながら学ぶことができました。

校内に同じ学年の初任者がいないので、立場が同じ先生の授業をみることはとても刺激になりました。また、現場でうまくいったこと、いかなかったことをふまえて、10年目の先生にたくさん助言をしていただいたことは、2学期からもすぐに取り入れられることだったので、とても有意義な時間を過ごすことができました。何より、目の前にいる子どもの実態をふまえて、「子どもファースト」の授業づくりを忘れずに続けていこうと改めて思いました。

子どもの興味・関心を引く導入が改めて大切だなと感じました。実物を見せる、活動を取り入れる、生活に沿った課題にするなどたくさん助言をいただいたので、2学期以降取り組んで行こうと思いました。

10年目の先生方からは自分にはない鋭い視点でたくさんのアドバイスをいただけて、本当にありがたく、今後の学びにつなげられると思いました。自分自身も10年後には先輩方のようになりたいです。

◀午後：附属池田小学校の先生の模擬授業を受けた初任者の振り返りシートより▶

算数1・3・6年生、国語2年生、道徳4年生、社会5年生の授業を公開していただきました。

1年生の算数の授業では子どもがワクワクして授業に取り組める気持ちをつくるのがポイントになると感じました。一つ一つの言葉かけや、教材の工夫等、子どもが「次はどうなるんだろう?」と思いながら授業が進んでいくと楽しく学べると感じました。

3年生の算数では最初から「ゲーム」という言葉が出てきたので、子どもたちは絶対ワクワクするに違いないと思いました。大人がやっても楽しめたので、盛り上がる様子を想像しながら受けることができました。また、分数について量分数と分割分数の2つに分けて考えたことがなかったので、教材研究をする上で、教科書以上のことについて深く知っておく必要があると実感しました。

6年生の算数の授業では視覚的な工夫や子どもの揺さぶり方がとても勉強になりました。少し難しい問題を使って子どもの意欲をわかせる工夫もあり、とても考えたいと思う授業でした。

2年生の国語では音読劇を取り入れた授業を見ました。あくまで劇の活動は手立てであり、何をねらいとするかが明確になっており、そのような視点を取り入れたいと強く思いました。

道徳の授業では大前提として自分の考えや思いが受け止めてもらえる雰囲気が必要だなと思いました。お互いの意見を認めながら双方の意見に共感して、考えを深め、価値に迫れるような展開をしていきたいなと思いました。

5年生の社会の授業では時間を忘れてしまうくらいしっかりと考えたり発言したりする雰囲気となっていて、全員が参加できていたと感じました。教科書以外の具体物、客観的な資料の用意や、その資料が自然につながっていく授業構成など大変勉強になりました。

先生方の授業を見て、子どもへの声かけの大切さを実感しました。「すごいね」ではなく、「～がすばらしい」、「～がおもしろい」というように具体的に観点を示してほめることが子どもの意欲につながると思いました。また、自分では思いつかない授業を見ることができ、本当に勉強になりました。先生の工夫次第で子どもを大きく成長させることができると感じたので、私も先生方のような授業がいつかできるようにがんばりたいと思います。

小学校班・中学校班ともに終日の研修でした。初任者研修の授業づくり研修は全部で7回あり、コラボ研で半分を終えました。4月からの気づきや学びがつながり、漠然としたものが徐々に形になってきたのでしょうか。今後も子どもが学びとる授業、子ども主体の授業の実現をめざし一歩ずつ進んでいきたいと思います。